

共生の社会

「心のバリアフリー」

― 尊重し合いながら、
地域の中で共に生きる ―

私たちの周りには、様々な「バリア（障壁）」があります。道路の段差などの「物理的なバリア」、文化・情報に接する機会の制限などの「文化・情報のバリア」、慣行やしきたりなどの「制度的なバリア」、そして、偏見や無理解などの「心理的なバリア」などです。これらを取り除き、誰もが生活しやすい社会にしようという考え方を「バリアフリー」といいます。

また、最近では、ユニバーサルデザインを商品やサービスの基本とする企業も増えていきます。実際に、誰もが使いやすいようにデザインされた商品やサービスが多く利用者に受け入れられ、市場の拡大につながるといった成功例も挙がっています。例えば、シャンプーとリンスの違いがわかるキザミのついたボトル、ボタンを大きくした電化製品、多目的トイレ、入り口の段差をなくし乗降を容易にしたノンステップバスなど、様々なところでユニバーサルデザインの考え方が生かされるようになってきました。

また、法的にも「障害者差別解消法」が2013(平成25)年6月26日に公布され、2016(平成28)年4月1日から施行されることになっています。法的整備とともに、物理的なバリアフリー化は進んでいます。しかし、「心のバリアフリー化」は十分とはいえません。

「人権の世紀」といわれる21世紀の社会としてめざすべき方向は、ノーマライゼーション（障がいのある人や年齢などに関わりなく、誰もが互いに尊重し合いながら、地域の中で共に生きるという考え方）が実現される社会であるといえるでしょう。

引用・参考

公益財団法人

人権教育推進センター発行
『CSR』で会社が変わる、
社会が変わる』



市人権推進課(教育庁舎1階)

☎ 32・2122

FA X 33・3525

E-mail: jinkensuisin@city.
komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇(312) 松並敦子・選

預かりし迷子が強く手を離す親が迎えに来たその刹那

横須町 山崎 泰子

《評》大きなイベントなどでは迷子が出ることを想定し、迷子預所が設置されている。その迷子の一人に作者は、寄り添いながら大丈夫だからねと、なだめたり、励ましたりして、少し落ち着いてきたかと思った時に、迎えに来た親の姿を見つけた子が取った瞬間の行動を「強く手を離す」と簡潔に臨場感のある語で表現しており、その時の作者の安堵感や少し複雑な気持ちも深読みできる巧みな作品である。

美しくめずらしき翅展べながら蝶は動かず梅雨寒き日よ

田浦町 西 照子

並び立つ木木より抜きん出て樟は大空に浮かぶ雲と会話す

神田瀬町 大西カヲル

目を細め草笛吹きし父の顔まざまざとして今日は父の日

横須町 福島 夢栄

退院まで生き延び咲いて待っててね暑さに強い花と聞くから

榑瀬町 松下 玉枝

薬で焼くカツオの味は絶品で柚ポンつけて飽きるほど食ふ

中田町 倉橋 正則

六月のなかばの雨は嫌になるカンカン照りもまたいやになる

坂野町 橋本千代乃

雨の日は出掛けることなく人も来ず家に籠りてパソコンを打つ

横須町 柿本美知子

ドリンクをぐっと飲みほし暑き中いざ出陣と農婦の顔なり

立江町 湯浅かや子

ヒステリーは子宮を意味すストレスの絶えぬ社会か男にも多し

立江町 大西 和美